

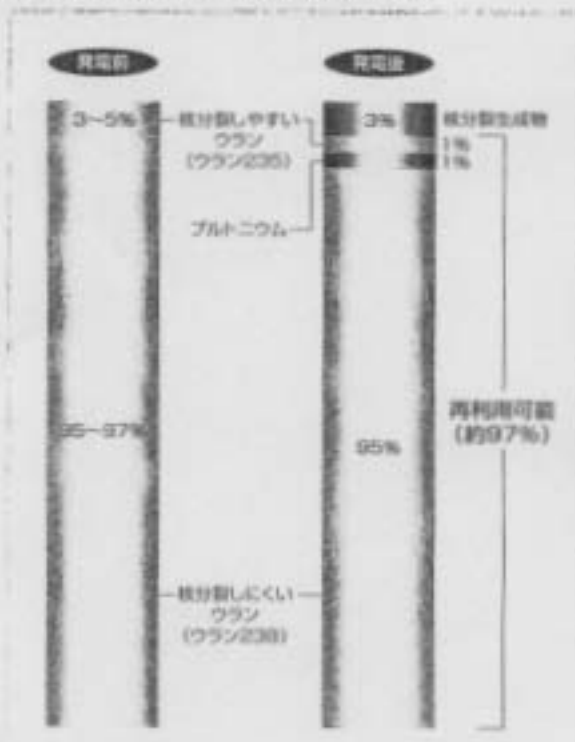


## ●使用済燃料について

ウラン燃料は、原子炉の中で3～4年ほど利用された後、使用済燃料として炉内から取り出されます。ただし、使用済みといっても、中にはまだ燃料として使える資源が97%程度含まれています。そこで使用済燃料から燃料

として使えるウランやプルトニウムを再処理という方法で分離・回収することで、繰り返し燃料として使うことができます。ですから使用済燃料は「リサイクル燃料」とも呼ばれています。

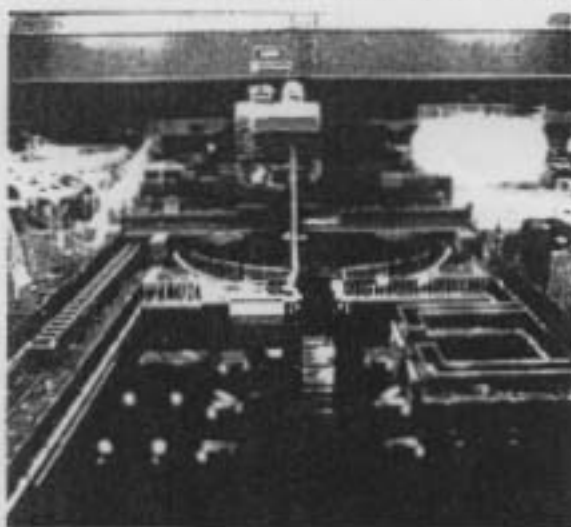
図 発電によるウラン燃料の変化



出典 電気事業連合会

発電後の使用済燃料には、燃料として使えるウランとプルトニウムが97%程度含まれています。また、残り3%は核分裂生成物等が含まれていますが、これは再処理した際に高レベル放射性廃棄物(ガラス固化体)として分離し、深地層処分する計画になっています。

図 使用済燃料は各原子力発電所内で貯蔵しています



原子力発電所内の使用済燃料貯蔵プール(福島第一原子力発電所)

使用済燃料は、再処理工場に運び出され再処理する計画ですが、青森県六ヶ所村に建設中の再処理工場の操業開始は2005年の予定となっています。したがって、それまでの間、使用済燃料は、各発電所の中に貯蔵されています。